



地域医療支援病院
赤磐医師会病院広報誌

コスモス 創刊号

赤磐医師会病院基本理念

心のかよう、温かみのある

医療の提供に努めます。

安全で質の高い医療を提供し、

信頼される病院を目指します。

かかりつけ医と連携を深め、

地域と共にある病院を目指します。

平成 18 年

10 月

広報誌発刊によせて



赤磐医師会会長 鈴木邦次郎

厳しい暑さの長く続いた夏もようやく終わり、やっと朝夕涼しくなり心地よい気候となつてまいりました。皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

さてこのたび赤磐医師会病院地域医療連携室だより“コスモス”をより多くの方々にお届けするという特別企画号を発行すると伺いましたので一言ご挨拶申し上げます。

思い起こしますと、よりよい地域医療を担うひとつの形として、いわゆる病診連携を密にして地域の皆様にお役にたてることを目標に、岡山県で唯一の医師会病院が設立されて今年で25周年を迎えました。これは地域の皆様が医療機関を訪れたとき、状況に応じて医師会病院の医師をはじめ、スタッフと連携を密接にとることにより、検査や治療が効率よく行われよりよい診療が出来ることを目指しています。

設立当初からの理念と現実には常に努力を続けましても、なお道は遠く感じられることも事実です。病院の基本理念や基本方針もお目にふれることと思いますが、これが掲げられたものだけに終わることのないように一歩でも内容の伴うものに近づきたいと願っています。これまで医師会病院をご支援いただいた多くの内外の関係者の方々に改めて感謝申し上げますとともに、今後一層のご理解とさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



赤磐医師会病院院長 川口 憲二

病院開設以来25年を迎えようとする今年、新たに病院広報誌が発行されることになり、大変意義深いものと考えます。

赤磐医師会病院はすでに地域の皆様や医師会の諸先生方から、大いにご利用いただいてまいりましたが、この広報誌を通して、なお一層ご利用していただけることを期待しています。

これまでも病院は設備の充実に努めてまいりました。平成16年には1.5テスラのMRIを導入し、昨年には乳房X線撮影装置など、新たな医療機器をそろえてまいりましたが、近い将来にはマルチスライスCTなどの高額医療機器も整備して、さらに利便性を図っていく予定です。

医療は、心の通うものでなければ、どんなに医療機器が整備されても満足していただけるものではありません。医師、看護師を始めとした職員の接遇の向上に努力してまいりたいと存じます。また岡山市内を中心とした、周辺の主な診療機関（岡山大学、岡山医療センター、等々）と連携して、安心して皆様方が診療を受けられるようにいたしたいと存じます。

平成16年から始まった新臨床研修制度に呼応して、地元を離れて、東京、大阪方面で研修をする医師が増え、地元の病院は医師確保にままならない状態にあります。是非お知り合いの医師の方がいらっしゃれば、医師会病院が待っていることをお伝えいただきたいと、この場を借りてお願い申し上げます。

今後とも職員一同一丸となって、24時間安心して受診していただける体制を確保してまいりたいと考えますので、引き続きよろしく申し上げます。

こんにちは 医局です

内科

我々の専門の消化器を中心に内科全般を扱っています。手術が必要な方などは外科と連携を密にして、速やかに手術が行えるようにつとめています。

また、特殊な治療やさらに高度な医療が必要な患者さまには、日頃連携している岡山市内の総合病院や大学病院と連絡を取り合い診療しています。

当院にこられる患者さまは高齢者が多く、診察にどうしても時間がかかってしまいますが、少しでも苦痛を聞いて患者さまの力になればと日々努力していますので、なんでも気軽に御相談ください。

内科医長 柚木 直子

外科

当院の基本方針は、安全を第一に考え、かつ、医療レベルを全国平均以上に維持するように、手術を行うことです。

全身麻酔は、麻酔専門医が行うため、私たち外科医は手術に専念できています。

当院で行っている手術は、消化管（胃癌・大腸癌・胆石症・膵癌・肝癌・急性虫垂炎など）が主ですが、他に、肺癌・乳癌・ヘルニアなども行っています。

最近、標準的になっている内視鏡下手術も、平成4年から始め、胆石症・大腸癌の一部・気胸に行っています。

今後、安全面・治療成績について数字をお示しし、お知らせしたいと思っています。

副院長 戸田佐登志

整形外科

整形外科は骨折、脱臼、靭帯損傷などの外傷や、腰痛や関節痛などの変形性の疾患を中心に診療を行っています。

入院による治療も行っており、手術の方も骨折の手術を中心に年間約150例ほど行っています。何でも気軽に相談できるような診察を心がけ、また赤磐地区の開業医の先生方やあるいは岡山市内の総合病院との連携も取りながら、地域の方々の健康に貢献できるようがんばっています。

平成18年7月からは、外来診療予約制を導入して、患者さまの待ち時間をできるだけ短縮できるよう努めています。

整形外科医長 片山 信昭

その他の診療科

泌尿器科：水曜日・金曜日

循環器内科：月曜日・木曜日

神経内科：金曜日

疼痛外来：火曜日

非常勤医師が対応しています。

院内ギャラリー

専敬本流 いけばな
稲田昌瑛様の作品です。

当院の正面玄関を
入ってすぐ、心にや
すらぎをもたらして
くれます。



各 部 署 か ら の ご あ い さ つ

看 護 部

看護部の組織は、看護師、准看護師、介護福祉士、保育士、看護助手のメンバーで成り立っています。4病棟に加え、手術室、外来、透析室、保育室などの部署に分かれ、現在108名によって支えられています。常にチーム医療の中核となり、コメディカルとの関わりが最も問われる部門と自覚しています。

本年度の看護部活動方針としては、まず、それぞれの専門職が、喜びを持ってその責任と役割を果たすことが、地域・社会の人々から信頼される質の良い看護の提供に繋がると考えています。また、看護職員の定着が今回の医療制度改革の大きな流れの中で揚げられた「手厚い看護」の評価にもなるとは思いますが、看護師増員の道程は今までになく厳しい今日この頃です。活動方針の一つに揚げた業務改革と工夫、経費節減などの努力も引き続き行なっています。又、当院は地域と密着した病院です。常に地域に広く目を向け、地域の中でその人らしい生活が確保できるように、地域医療連携室との連携を密にとりながら、その人が生活する地域の社会資源との支援体制を整えるように努めています。以上のように、看護をサービスと経営の両面からとらえ、患者中心のチーム医療推進に貢献できるよう頑張っています。

総看護師長 景山 悦子

地域医療連携室

病院受付の向かいに位置し、社会福祉士、看護師、事務の3名で組織しています。業務は入院や検査の予約をはじめ医療・介護・福祉等と連携を密にし、相談業務や種々のお困りごとに幅広く柔軟に対応させて頂いております。どなたでも気軽にお立ち寄り頂ける場でありたいと思っております。

看護師長 竹内 京子

事 務 部

事務部では医事課、経理課（会計係、用度係）、総務課（総務、庶務係、施設保安係）の3課で構成されています。職員は24名で平均年齢は42歳とやや高めですが、それだけに病院を下から支え、業務上の潤滑油となるよう認識しつつ、現在の厳しい医療経営変革の時代の荒波をかき分け進むべき方向を見いだすための羅針盤の役割を担うものと自負しています。

忙しいルーチンワークに埋没してしまいそうな毎日ですが、役割とその責任を確認しながら信頼とサービスをモットーに業務に励んでいきたいと思う今日です。

事務次長 西中 淳

栄 養 科

栄養科では、管理栄養士2名で給食管理及び栄養管理業務を主に行っています。

給食管理業務では、委託業者の管理栄養士と密に連絡をとり、安全で美味しい食事作りを目標としています。

また、栄養管理業務としては医師の指示の下で栄養食事指導（個人指導・集団指導）の実施、各種委員会及びチーム医療のメンバーとして参加し、入院患者さま個人に合った栄養管理を行っています。

管理栄養士 上山ひさよ

薬 剤 科

効果的で安全な薬物治療が提供できますよう、薬剤科は以下のような業務を行っています。

- 薬の量や相互作用、配合変化、投与速度等のチェックも行う調剤業務
- ベッドサイドで薬に関するご説明、ご相談を行う病棟業務

その他、薬に関する情報を提供したり、チーム医療の一環としての感染対策委員会、栄養サポートチーム、褥瘡対策委員会に参加しています。

薬剤科長 中島 洋二

よろしくお願ひします！

臨床検査科

7名（女性4、男性3）の臨床検査技師で院内・外の血液、尿等の検体検査、心電図・超音波等の生理学的検査を行っています。通常の医療、健診においてはエビデンスに基づいた正確迅速なデータ報告を、また院内感染対策委員会での検出菌名のデータ報告等、各種委員会にも積極的に参画しサービス低下につながる事のないよう地域医療に少しでも寄与すべく日々業務改善に努めています。

臨床検査技師長 松江 良一

理学療法科

当院のリハビリテーションは、理学療法のみであり、整形外科疾患の術後、外科術後、中枢神経疾患（早期～慢性期）を中心に行っています。

スタッフは理学療法士3名、助手1名の計4名です。

外来・入院患者さまの機能訓練を中心に物理療法（温熱・牽引・電気治療）等を行い、必要に応じて病棟でもリハビリテーションを行っています。

理学療法士 池田 奈美

放射線科

レントゲンというと“被曝”が気になる方もいると思いますが、胸部レントゲンを撮る時の被曝量はどの程度かご存じでしょうか？ 実は日本からサンフランシスコまで飛行機で行く時に宇宙からの放射線により被曝する量と同じくらいなのです。

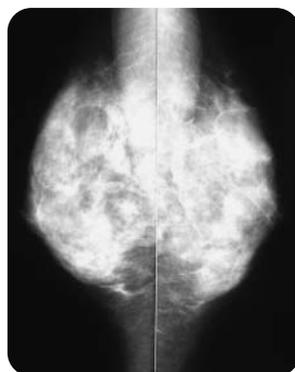
レントゲンは病気について大切な情報を得ることが出来ます。あまり怖がらずに検査に臨んでください。より詳しい被曝について知りたい方は、いつでも私たち診療放射線技師に尋ねてください。

放射線技師長 矢田 建彦

最新トピックス 放射線科

今年2月に最新のマンモグラフィ専用装置（日立 LORADM-IV）が導入され、画質の向上に努めてまいりました結果、10月1日よりマンモグラフィ検診施設画像認定（マンモグラフィ精度管理中央委員会認定）を受けることになりました。

撮影においては認定技師、診断・治療においては認定医と、それぞれの専門スタッフが対応し、初期乳癌の発見・早期治療に貢献していく所存です。今後とも、よろしくお願ひいたします。



マンモグラフィ精度管理中央委員会ホームページ

<http://www.mammography.jp/>

ピンクリボンは、乳癌検診受診の啓蒙運動のシンボルマークです。



院内保育所の子供たち

消防署見学をしました

9月1日に非常災害訓練の一環として訪問しました。絵本やテレビで見たりサイレンの音を聞いたりして身近な消防車、救急車ですが、実際の大きさに驚いていました。

車体に触ったり中を見せてもらったりして大変喜んでいました。



院内保育所 あしたば保育所の子供たち

作ってみませんか

うさぎまんじゅう (栗入り)

かんたんレシピ

材料4個分

上白糖	25g
水	10g
薄力粉	20g
上新粉	15g
ベーキングパウダー	1g
小豆こしあん	60g
栗甘露煮	4個
手粉用薄力粉	適量

ピンクの羊かん

水	40g
粉末寒天	0.5g
グラニュー糖	25g
白あん	25g
天然着色料(赤)	少々

作り方 羊かん

- 1) 水に粉寒天を振り入れ火にかけて煮溶かす。
- 2) グラニュー糖を加えて溶けたら、白あんを少しずつ加えて煮あげる。
- 3) 赤の着色料を加えピンクにし、流し固める。
- 4) 固まったら、耳8コ、しっぽ4コをくり抜く。

作り方 まんじゅう

- 1) ふるった上白糖に水を加えてホイッパーで混ぜる。
- 2) 薄力粉・上新粉・ベーキングパウダーをふるって1)に加え木杓子で混ぜる。
- 3) 小豆こしあんを4コに分け、栗を包む。
- 4) 手粉用薄力粉に2)をおき、固さを耳たぶくらいに調節して4コに分けあんを包む。
- 5) ぬらしたさらしを固く絞りクッキングシートをのせ、生地を置き、蒸し器で11分蒸す。
- 6) 熱が取れたら、羊かんの耳・シッポをつけて赤の着色料で目を付けて仕上げる。



“ホームメイド協会のレシピ参考” 栄養科

あとがき

- コ ミュニケーション(対話)
- ス マイル(笑顔)
- モ ビリティ(機敏性)
- ス キル(技術)

愛らしく控えめで、そして根強く「コスモス」の愛称で先生方に親んでいただいています連携室だよりを、この度地域版として地域の皆様にも読んでいただくということになりました。院内公募で9名の編集メンバーが決り集合し、10月創刊を目標に日夜孤軍奮闘し何とかこの日を迎えました。創刊号ということで少し堅苦しい内容になってしまいましたが、次回の春号は心温まる情報を盛り沢山にお届けしたいと思います。皆様のご意見をお待ちしています。(編集部)

地域医療支援病院 赤磐医師会病院

〒709-0816 岡山県赤磐市下市187-1

TEL 086-955-6688 (代) FAX 086-955-4946

E-mail: akaiwahp@gamma.ocn.np.jp http://www12.ocn.ne.jp/ akaiwahp/

発行日 平成18年10月15日

